



おいでなして+日赤だより 58



医療を支える臨床検査

〜生体はフアジー?!〜

今回は、検査・輸血部が担当いたします。聞きなれない職場名ですが、いわゆる「検査室」といわれている所で、臨床検査業務に携わっている部門です。病院を舞台にしたテレビドラマは昔からありますが、検査室が映像に登場することはまずありません。よく我々の業界では、「縁の下の力持ち」などと表現されることがあります。陰で医療を支えていると自負しています。

臨床検査

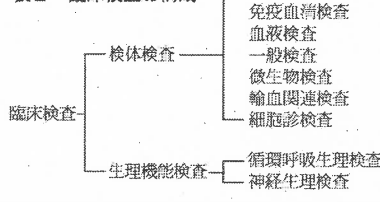
本来なら「臨床検査とは」と切り出すところですが、今回は検査値の判断に関わる裏事情を少しだけお話しさせていただきます。どうぞお楽しみに。

臨床検査は、病状や治療効果、臓器の障害の程度を調べる目的で行われますが、検査結果を見る上で心得ておきたいことがあります。生体の変化は常にフアジーであり、その特徴はホメオスタシス(恒常性)と揺らぎの二面を兼ね備えているという事です。検査値は外部環境や生理的、心理的要因により容易に変化(表1)しますが、生体は常に内部環境を一定の状態を保とうとしています。検査をするところある計測値が結果として得られますが、これはフアジーな現象が一つの数値に置き換わり、それ以降は数値が一人歩きをしよう危険性をはらんでいます。臨床検査結果を判断するときには、検査値をもう一度フアジーな現象に戻して臨時的(総合的)に判断することが必要とされています。

表1 検査に影響を与える生理的要因と検査項目

- ※早朝空腹時採血が基本:前夜9時以降何も食べていない状態
- ・食事の影響 : (上昇) 血糖、中性脂肪、インシュリン (低下) 総コレステロール
 - ・日内変動 : (朝>夜) 血清鉄 (昼>夜) 総蛋白(たんぱく)、尿酸
 - ・性別による差 : (男>女) CK、中性脂肪、 γ -GTP、尿酸、BUN、CRE (女>男) HDL-コレステロール
 - ・安静が必要 : NH₃、レニン活性
 - ・運動で高値 : CK、AST、LDH、ミオグロビン

表2 臨床検査の構成



ています。

もう一つ、検査値が正常なのか異常なのかを判断する基準について、以前は「正常値」という呼び方をしていました。が、健康診断の普及とともに一般の人たちの検査値への関心が高まり、正常値との比較に一番一憂する傾向が強くなってきました。そんな状況を受け1996年の医師国家試験の出題から「基準値」「基準範囲」という呼び方が採用されたといわれています。現在、基準値には正常値と同様に健康者とみなされる集団から統計学的方法により導き出された「健康基準値」と、医師が臨時的にある決断をし、行動を起こす時の基準(診断基準、治療目標値等)となる「病態識別値」があります。もし厳密にある個人の健康状態をチェックするのであれば、その人の健康時の値(健康値)をあらかじめ知っておくことが理想です。

臨床検査技師

臨床検査に携わる技術専門職を臨床検査技師といいますが、大学で専門知識と技術を学び、国家試験に合格した人たちで、現在44名が勤務しています。業務内容は広範囲に及び(表2)、それぞれの分野で専門性を発揮し、厳密な精度管理のもと常に正確な検査値を提供できるよう日夜神経を尖らせています。

トピックス

昨年7月、当院の検査室は臨床検査の品質管理に特化した国際規格「ISO15189」を取得(県内4番目)しました。これは、臨床検査サービスの品質と検査室の対応能力に対する国際的な第三者評価です。品質の向上と継続的改善に取り組む施設としてお墨付きをいただきました。

これからも患者さんが安心して検査を受けていただけるよう、信頼に足る質の高い臨床検査を実践してまいります。

筆者プロフィール



唐木 幹次

諏訪赤十字病院
検査・輸血部 臨床検査技師長

趣味: 自然と釣りやハイクを愛する

(次回は2月14日に掲載予定です)

私たちの生活の中で出合う病気やアレルギー症状、けが。病氣予防や、かかったときの対応などについて、諏訪赤十字病院の医師の皆さんに、原稿を寄せていただくコーナーです。毎月第2火曜日に掲載します。58回目は、臨床検査技師長の唐木幹次さんです。